

インターネット上の協働学習環境におけるディスコミュニケーションに関する研究

The study of the miscommunication on the environment of colaborative learning on the Internet

学籍番号：201121723

氏名：高橋 直明

Naoaki TAKAHASHI

1990 年代後半におけるインターネット利用の爆発的な広がり時代に生まれ育った児童・生徒たちは、その科学技術の発展やグローバル化の恩恵を受けているだけでなく、日常的に何らかの形で機械に振り回されているなど、そこから生じる様々な悪影響も指摘されている。インターネットの影響については、1995 年から 1997 年に行われたインターネット・パラドックスの研究において、現実の対人関係とオンライン上の対人関係とのバランスが崩れた際に、利用者の健康、対人関係に及ぼすインターネットの影響は悪化するかもしれない、という点が指摘された。現在では、青少年におけるインターネットの過剰利用に関連した対人関係への影響が、しばしばクローズアップされることがある。例えば、インターネットを介したコミュニケーションの中でしばしば起きる「フレーミング」現象が挙げられる。一方、コンピュータの学習への活用においては、従来の個人の学習を支援する役割からグループ学習を支援する役割へとシフトしている。そして、ネット上のコミュニケーションで、教え合い、学び合い、課題を共有する協働学習を実現した。コンピュータはインターネットを介して、学習を個人的な営みから社会的な営みへと発展させる手助けをしていると言えるであろう。コンピュータ支援による協働学習では、知識の共有は場所や時を選ばない。情報交換は、2 者以上のグループ又はコミュニティで行われ、参加者全員のメッセージは同期的に又は非同期的にインターネット上に可視化される。こうした協働学習においては、ネット上で執り行われるコミュニケーションが学習の中身を構成する。そのため、ネット上のディスコミュニケーションが、学習の成否に重要な影響を与えることになる。そこで、本研究では、学校の内外のネットコミュニティにおいて行われる協調学習におけるディスコミュニケーションの事例を抽出し類型化して、その要因と構造を明らかにし、インターネットが生徒の学習活動にどのような影響を与えるかについて考察する。

研究指導教員：平久江祐司

副研究指導教員：辻 慶太